

情報共有

非管理大書

B/B班殿  
Xisa班殿

フレス村産TM.

東京電力株式会社

※分室手渡しのみです。

(4枚)

プラント状況(本店レク) 議事メモ

日時：平成23年6月5日(日) 11:00~:11:40

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約30名(カメラ4台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

## 配布資料：

- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ(6月5日6時現在)
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリング結果 他
- ・ 福島第一サーベイマップ(6月4日21時30分現在)
- ・ 福島第一原子力発電所 3号機原子炉建屋西側の高線量がれき

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

## 質疑：

Q. 今回発見された950mSv/hの瓦礫は遮蔽措置を行うのか。

A. 本日回収する。瓦礫を回収するまでは作業員が不用意に近づかないようカラーコーン等目印を立てておく。

Q. 950mSv/hの瓦礫の由来は。また事故後3ヶ月も経つのに何故高線量の瓦礫が発見されるのか。

A. R/Bが水素爆発した際に飛び散ったコンクリート片と思われる。水素爆発が発生する前に炉心損傷が起きており、建屋内に溜まっていた放射性物質がコンクリート片に付着したため高線量となったもの。サーベイをしながら瓦礫等の回収を進めているので、時間はかかるがひとつずつ回収していく。

Q. 今後も高線量の瓦礫が見つかる可能性はあるか。

A. 可能性はある。瓦礫を撤去した下から更に瓦礫が発見されることはある。ただこのエリアについては、既に地面が見えているので、かなりの瓦礫が撤去できているのではない。

Q. 2号機付近に550mSv/hの瓦礫や170mSv/hの鉄パイプが発見されているが回収をする予定はあるか。

A. 高線量のものについては順次遠隔操作で撤去していく予定。本日撤去が予定されているのは950mSv/hの瓦礫のみ。

Q. 瓦礫を撤去することでR/B内の作業も進めやすくなるのか。

A. 瓦礫の撤去により建屋の中の線量が下がるということはないが、建屋に行くまでの

被ばく線量を減らすことはできる。

Q. 今回発見された 950mSv/h の瓦礫は、他の瓦礫等を退かしたら発見されたのか、それともそのまま表に落ちていたのか。

A. 確認する。ただこのエリアは何度かサーベイしているの、今回新たに発見されたものではないかと考えている。

Q. 瓦礫と 3号機R/Bとの距離は。また瓦礫の大きさは。

A. 約 40m程度ではないか。大きさは握り拳程度。

Q. 過去のサーベイマップに記載されていて、現在記載がないものは既に撤去済みということか。

A. その通り。サーベイマップには、現在注意している物品を記載しており、既に回収が済んでいるものについて削除している。

Q. サーベイマップ上の 3号機R/B西側に B靴と記載があるが、3号機R/Bから飛んできたものか。

A. そう思われる。R/Bオペフロには靴を履き替える場所があるので、そういった所から飛んできたのではないか。

Q. 2号機R/B西側の 550mSv/h の瓦礫の由来は。

A. 1号機もしくは3号機が水素爆発を起こした際に飛散したものではないかと思う。

Q. 回収した瓦礫はコンテナに入れることになると思うが、コンテナに入れる際には、線量ごとに分けているのか。

A. 無差別に回収をしている。コンテナ集積場にて、コンテナの表面線量を測定し、線量の高いものと低いものとに分け保管している。

Q. 2号機R/Bの西側にある 550mSv/h の瓦礫の大きさと2号機R/Bと瓦礫の距離は。

A. 距離は北西に数十メートル程度。瓦礫の大きさは確認する。

Q. 今回発見された 950mSv/h はどのように回収するのか。また瓦礫の線量は過去発見された瓦礫で何番目に高いものか。

A. 瓦礫は遠隔操作で回収する。何番目に高いものかは確認する。

Q. 画像の瓦礫はもともと赤かったのか。

A. 不用意に近づかないためにマーキングしたもの。

Q. 建屋への飛散防止剤について、雨などへの耐久性はどうか。

A. アグアA3000の耐久性については、アスベストへの散布実績もあることから問題ないと考えている。

Q. 昨日情報提供された作業員の発病の診断結果は。

A. 不安定狭心症の疑いがあるとのこと。1週間程度入院する。診断結果はまだ出ていない。

Q. 汚染水のタンクはいつ1Fに到着するのか。

A. 昨日栃木県を出発し、小名浜港・Jビレッジを経由して、本日早朝に構外の資材ヤードに到着した。1Fサイト内の準備ができ次第、構内に入れる予定。

Q. 2号トレンチから集中ラドへの移送状況は。

A. 昨日の18時39分に、2台のポンプで24m<sup>3</sup>/hを移送。11,500m<sup>3</sup>付近まで移送する予定。

Q. 防潮堤の設置は当初6月中旬とのことだったが。

A. 6月末頃を予定。

Q. 汚染水浄化装置の試運転の詳細予定は。

A. 本日の予定として、油分離装置単体の試運転については、純水を使用してリークテストを実施する。キュリオンのセシウム吸着塔については、制御盤の取り付けを実施。アレバの凝縮沈殿槽は海水を使った通水試験を実施する。淡水化装置については濾過水を使ったリーク試験を行う。

Q. 油分離装置については、油をまぜた水を使うということか。

A. 水だけでリークテストを行う。

Q. 海水は海から汲んでおこなうのか。

A. 1F防波堤の外側の海水を使う。

Q. 個々の設備の健全性を確認した後に、一連の設備を繋ぐことになるのか。

A. その通り。

Q. 汚染水の処理装置それぞれの作業は本日の何時ごろに行うのか。

A. 確認。

Q. 本日夕方に予定されている3号機の復水器への移送予定量は、水位はどの程度下がると見ているのか。

A. 予定量は2,000m<sup>3</sup>。水位の低下予想は難しい。

Q. 大型タンクの件。120m<sup>3</sup>×170基。100m<sup>3</sup>が200基であり、100m<sup>3</sup>のうち100基は高濃度汚染水用とのことだが、これが以前保安院に報告していた8月中旬頃に設置予定としていた10,000m<sup>3</sup>のことか。

A. その通り。高濃度であることから、半地下に設置するため8月中旬頃の設置となる。

Q. 高濃度用のタンクは設置後すぐに使うのか。それとも何かあったときのバッファと

して使うのか。

A. 万一、汚染水の処理設備が止まった際に受け入れ先として使用する。

Q. 汚染水の処理設備が止まった際にとのことだが、リスク要因は何か。

A. 現状ははっきりしたことは言えないが、残渣を処理する際に詰まってしまうなどがあるかと思う。キュリオンの装置は何棟かあるので、棟ごと交換することもあるかと思う。

以上